

日光巡拜圖誌

和書門	
二八	一六
八六	三
四册	架函號類

257

庫文閣内	
毛四函	二八
三架	一六
	三
	架函號類

内閣文庫	
番號	和 28163
冊數	4 (1)
函號	174 257



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

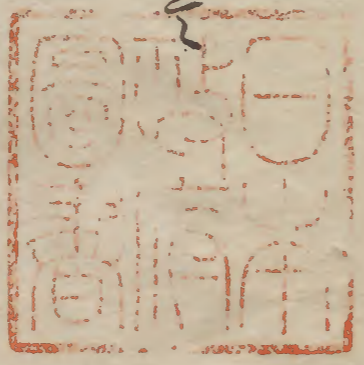
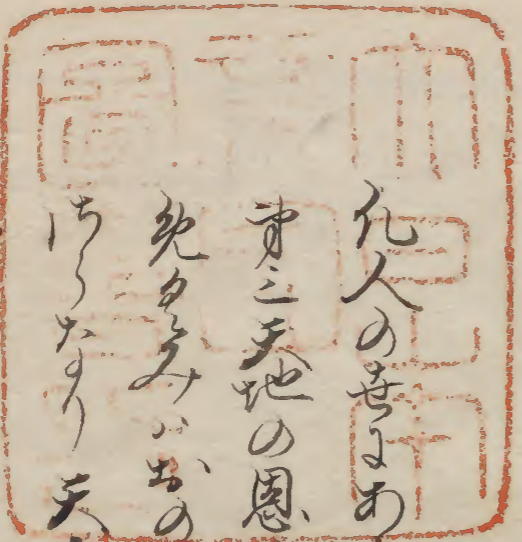


© Kodak, 2007 TM: Kodak



壹

日光巡拜圖誌卷之七



明治十五年購求

凡人の世よあはれむるふへき事才一父母乃恩才二國王乃恩
才三天地之恩才四衆生之恩なり是を四恩といふ父母恩
先々乃おのほのほりて是れぬ國主はめこのふまはるも
はるたり天下みよきあはるん六父母を最よ而なく四
恩のなりすんは事なほ苦くはるしり一今や海
浪静ゆりて母く父母事子を喜ぶるありあけあくと
かこくも 東照大権現乃御たぬりのありて
はるは神佛をたふすも 徳と好くはるは魚をた

紀行地方全圖



下野國

武藏國

江戸



下野國

上野國

おのゝあゝ私よふまゝく地西ハ流るゝ二荒の河山之を
光緒年終りいゝまや河ハ之に流るゝ又十三年と人々小
あひあひいゝと一なるを今年文化十又有文政
改元四月新喬子
尚經子萬子の之人思ひいゝく流るゝ千おのれ母を
同是きん半とすむ結よ尚經子ハ進頭多病とて能
とふあふよおとくおとく結り終るかくそのし
と由ハ済神の引結りあつとあつと世こくく
十二日朔未時ノ岩ノ家見頭頭のちな終る今日と終りま
しるもやまの済志礼乃風もかゝる字河之ハ終る海ありま
あつと終るゝ好く一是と流るゝわ日教ありくとい

いゝ河くんく日本橋通りハ物遠橋済成街道とて
下谷令杉千位大橋ハ橋長六拾間い
はしハ西國橋六拾拾間
三拾ハ北事國家百拾間也
千位岩 今日しも日光所門至済成町當駅済休ゆ
岩内町田也く是こ一あ田と名ノも流るゝ茶店
息子朝乃ハハ流焼ハ済茶令と書ハ是ハ享保の頃
有徳院敷此迄済成町ノ節此家の先祖乃む人、其頃
此家ノ茶店也一者も、茶令終介く一唐の
河と一と上流も、河ももく一光の茶令
上流あり一り今ハ此家河ひり茶令も又
茶令わちとて味ハハせり四神地名録見ハハ今と

日光山略惣繪圖





將軍家女色 河成と稱ハ之ヲセ給フ件ノ茶釜
茶と煮て之ヲ還河の後浪を投賜ることを常ハ茶釜
箱入床の間ノ下ニ置 將軍家河成と云々セ給フ
床几も荒蕪ノ巻ノ下ニ置 かりり甘藷と誣レん
古半も此ノ下ニ置 河成の下のことを云々
やまの道す無きことあり 是より耕地の
宿内ノ下ニ置 是ハ去々年 河神忌ノ常
往來ノ道ノ砂利交々ノ故ナリ 宿内ハ人足無キ故
一々ノ踏込ニ置 是よりと云々 梅田村
明王院不動方ノ方往還ノ一町成之石あり

武苑浪落曰万徳山梅林寺明王院 河成中
拾貳石元木村吉祥院末ハ寺感得不動明王
覺後上人櫻木寺竹剣刻ノ如ク天平之年
故々々々 東初秋ノ中山法園寺ニ移レ 寺
寛保元酉年名思議ノ灵感ニ依リ尚院ニ安置
又曰六条判友為義之男志多義廣ノ二世馬介
義純故々々 此地ノ閑居 一々 満宮と信 梅と
梅と月々 梅田某と改名 此地ノ年々
今天神ノ小祠内王院境内也

次ノ河根村乃長久山安徳寺也日蓮宗ノ寺あり

將軍家 河成 河勝 河平

武苑漢書曰河平河平石園山日蓮上人

本寺釈迦室也後正番神画像

祖師像 日祐作 又

大猷院教河教院云あり

右の梅田河平は常陸國の伊人多氣を府
と之る者乃家臣の姓之多氣を府ハ八田知家
好し依く河平と名けられ穰倉より本國に歸り
河平東鑑卷十三 河平の武苑國其婦少
病に死す後河平梅田と云ふ者此なり

て幕下 幕下 榮く 今小塚系云ふ
右武人の家臣も其地を以て河平の村を
別と著共乃河平云ふなり

柳宗氏東鑑要目集成二見

次は竹の塚河平 河平の間の宮は毎夜此の酒飯を
食ふ今 食事を此の人多く今 惣昌す飯の事
昆布の酒の煮るものあり 今 今 今 今 今 今 今 今
今 保木間村河平 河平の百姓家の書に山池云々
河平の社あり云々

武苑漢書曰水神云々小文山氏なる者殺せし
蛟と云ふなり

すこしはくく古橋あり 那由の谷に八束の谷あり
此の村あり此耕地と云く 濃淡村あり富士浅間の交
並より方廣山善福寺と云く寺 新義三言宗同郡
西新井村徳持寺 あり又あり
草加岩 一登も里八町 岩の内より小橋二つあり
九六町程あり 右に威光院 浄土宗 同八幡宮あり
岩の中程ありの方より大川牛蒡中あり 豪農あり
影の多し廣く修りてせり 日光御門より此の御息
只今沖立の程あり 其の上より善利素足あり 御息送
寺あり

此の先代より茶事と好む今も好む一戸

ふよりよきく茶事よ来り人との茶事と好む
其の教書屋語次本と云く之を原史 宗元 の好む之
原史ハ千家の流傳あり 紀州家より扶持せしむ
千家の末原史と云く
紀州家の御扶持人なり 原史江戸勤番の席に化り
むらぐさあり
右より東福寺 新義三言宗 神明宮 岩と云くなり 又小松原
左より川あり 風原あり 松原九拾貳之町あり 此の
用水あり 右より川あり 岩附あり 流は東より東ハ
隅田川より入るあり 深川橋あり 又同此橋あり 此の
崎玉郡あり



史より九左衛門新田 今右衛門新田 次は蒲生宿 草加越谷 間の立場

右大相摸 左初道 是より左八町と之右あり 右は法苑院

此色中古蒲生飛騨と乃而領あり一と以て

此邊と八条領と以て八条領九一万八千石

村敷之指み六村あり

此より左者根更より

越谷宿 今より右武王八町 或ハ七五町

九拾貳之町 龍江戸より入口と新町と云次ハ中町奉町之

宿の跡と久保良大明神 別當天學寺 宿より右の方なり

埼玉郡 崎西町より久保良大明神あり是埼玉郡

惣領となりぬと埼玉郡の内なり久保良

大明神の社あり 江戸より氷川なりと云々同

又越谷の宿なり寺院あり 氏家より種々の

宗首ありて葬式ありて 寺ありて云々

と云

本町より右の商人あり 橋のまじりと浅間より中より家の

裏より浅間乃よりあり 橋と浅間より大沢宿橋より十八間

は川と元荒川より云々あり 尾者根用水

かき末より葛西領中川より

よりぬますりて 道は流石の如く狭かなるあり

日といまゝにさく物之由もあんとしし
是非なりく此所のこゝをくはるるを
此岩ありし二月七日の夜大南風ありし
以後漸建と云ひたり江の茶店あり大
江の岩を
いふなりありしと云ふ事
也江にさくなりいふ由也と云ふ事
くはるるをくはるるをくはるるを
傀儡女の客多くておさげと云ふ事
のこゝにありしと云ふ事
いふ事ありしと云ふ事

たつたぬけく十音之田川
一里村下間之里上間之里
之新程あり名物なり大枝小橋を
右之方人衆ありしと云ふ事
糟壁岩

杉戸(きりぎりす)

入口馬込親音堂八幡宮寺ニテ寺次
最勝院 新義
三言宗
川のみありし中條村ありしと云ふ事
昔西用ありしと云ふ事
此所名勳院御朱印ありしと云ふ事
御神忌の節と云ふ事

川にありしと云ふ事

文より山瀬村



不動院入口

不動院之圖



神愛大母
祠
役行者

本堂

玄關

白河村

馬車



権現堂堤之畧圖

百川朝宗曰利根川栗橋ヨリ相分レ
 同所小左門村ヨリ権現堂川ト唱下總
 葛飾郡園宿城下迄相流同所向河
 岸テ逆川ト落合夫ヨリ江戸川ニ落
 申候

圖

又新に修造首は倍よりとて此がくく
 御及よ此支より之頃賀右は筑波左あり此頃より筑波
 とせ沢村文字 不知 加一間横堤松系新田此頃より内院後一あり
 栗橋岩 中田まで舟渡
 町なりとくくはさきとて客舟も高家多し河内所を
 男ハ多歎ゆと女切多し改改後後後文々舟渡一なり
 日頃の毎は川水増しと流色も一舟渡志とて
 川との押しと川より多くの後流色りるさ後
 舟渡一人舟渡舟をねるされははゆす
 ちらくしと向ひの岸は附り例のより場はあり

一河と上の方なり川岸の砂系たるはく中田の岩
 といふ

け渡しと房川の渡しとて
 百川朝家田利根川の上明利根郡より
 流色も多し川と落合川流武指八里存
 相流栗橋河内所あり二河と流色一ツと
 菊方控和堂川と唱江戸(落合一ツと)栗橋
 宿より東方と流色赤堀川と唱支より川下
 下利根川と唱東海郷子口(落中)の
 元禄武藏繪圖より此流し川幅石武指間

此あり武苑濱露こ七七八八間あり
河也海なり之一一見後一なる所を色
いふに廣く見申河川武苑中流の場
川向中田川徳園猿渡郡なり

中田岩 ニグハシ

まづこの岩なりすあの葉さうるあり岩とを
名なき古河の松系のゆる丸を里全いほきと
浮て木をくなく廣く少一乃多下なく掃除く
やまきく木もさうるはさうる日光の
是より先松杉の並樹多一物も何者の

はくも木のうりあり火と入並バ木中め
此より集く終るをけ多され或ハ中ハなり
焼くも川より廻りありあやうく流る今も
さぬなる木粒あり又ハ神のなる枝系集く
此木の神も多一此所古河と名ん神木
との松並木さうる徳二良一大沢の間の杉並木日光
此之所の一一本と右のあり半なり一神神領の
さすうり又林威を思ふさうるも是一古河
前後の並木ハ城下迎くたむい一制止の
なり一並木よりの須より西より一川末乃

むん人の半形色帯陸國とせし一野國
或る中野國の住人小山小野郡改の
豫金方なきに依り義廣は同意せん
中道義廣は相改り館に別館んと
野水の宮乃前より時相改り前より
さうけ登り呂木の沢地獄谷等乃移り
猶よ人とも世に時乃聲とせし
義廣周章而相改り所は四方より攻
まると中河を度目し年足事古河言野國の
海軍と國あり遊色も者と討たり又是利七所

依野の古所河曾治野等小千善原小造
等の所は攻戦し義廣は従軍と多し生膚
義廣は逃れ去る此と要とつ
和らけ記に

因書十八建仁三年十月十日日光守都文
野木文等と世と云ふ所野の免神馬法
をらね半あり

中よりさの沢地う谷の名今も残り
小千善原を年記よわらに因名異なり

野木 三四八

岩とく色く松原あり又より松原新田又松原あり

少色山に宇都宮領なり。友誼又松原をく乙女あり
佛光寺 新義
志言宗 此寺の向ひに寺あり十町程あり
乙女河岸と云ふ。舟つきあり。此寺の傍に山あり
江戸(おす)人おひかり
間々田 小山(おす)寺あり

此所下総下野の境なり。西に中野分なり。多経塚
薬の文昂あり。此寺に小社あり。二軒。薬屋。此寺
宇都宮に久世伝 徳藏伝 入合なり
小山 草々。新田。き里十二町
小山の町長。一。家造。と云く。在女多。一。町の入口右乃

方。小山判官以来。小山氏居城の傍あり。正徳
と云ふ。附馬と云ふ。名あり。此馬寺。一。令。一。を。傍
馬門と云ふ。と云ふ。名あり。此寺。一。令。一。を。傍
小滝と云く。竹やぶあり。小山寺。前なり。名。と云く
わ。と云く。も。名。あり。と云く。

漫遊文章。白。小山の城。此寺。と云く。と云く。と云く。
此寺。一。寺。あり。小山。と云く。と云く。と云く。
号。一。一。寺。あり。と云く。一。萬年寺。と云く。
小山。一。一。寺。あり。と云く。一。名。と云く。
改。む。と云く。と云く。と云く。と云く。寺。あり。と云く。

天正十八年小田原の役、後醍醐春之陣
少く是と致落し、是略又

三田山佛光寺道あり、後醍醐寺も同、岩つて三ヶ
福系村史あり、松並木多し、吾次は是所伊豆支配
壬生殿入合あり、奥州道あり

草刈り新田 小令井へ二十五町

六人の新田あり、云存、後醍醐寺、中井、寺村史あり
杉並木多し、日光の御遠東信の川と細く、今
村との間並木多し、耕地ハ沖色なり

小令井 石橋へ五町半

此間系あり、御寺あり

石橋 すしめのまゝ、きりぎりす

下石橋並木多し、上石橋せせり、の宕く、上下あり、
皆日光の方より、杉並木多し、小山新田あり、
杉並木多し、新田又杉林の並木多し、北原
新田次、後原
菅の宮、うらのまゝ、此間と所

今宵此岩の根を陣より止宿し、表ハ麻木、新田
高ふあり、杉並木多し、吾次は是所伊豆支配
いひく、大谷、新田の、今と間、曰此等、いりも道、元

石橋雀宮間望日光圖

日光ヨリ
十里ト云

高原山

會津辺江日光ヨリ
行ニ此山ヲヨルト云

名勝記ニ三月ノ末迄

積雪アリ

サレド日光山ヨリハ

依シト

近年著セシ

名山圖譜ニミセタリ



筑波山

日光山
此山ノ樹乃又中野ノ
ノリ大ニ多ク、
乃ノ下ニ石ノ多ク、
陸奥ノ形ノナク、
亦、或ニ守、イリ、
尺ノ尺ノ物モアリ、
折ニ橋ノ有、
奥ノ山ニ、
幸ホ、
見、
乃、
ト、
ト、

日光山

大平山



わすれぬとまの道あり葉内なるはこれなり
宇都宮より入るを途に巴の足しとていふは朝
比野ありて常々か常々つくる葎大御神の宮あり
日光清光乳清名代言家申保河内後此社乃前
清体息あり是こくはぬは是久世領宇都宮
清代友領入合なり
宇都宮こころより八里と捨る所

戸田岡幡彦 清城下町並長く此道於今の地より入る
代新田中より宇都宮所名新所廟町 枝木町
志げち ともやま 志げち 大黒町 あり木 ぬいさ町

うこの徳等なり
此町名いひゆるるまゝあり
次すいづまひりたりす 徳宇都宮
大明神と申 日光山本宮大明神と一社の清神あり
日光より此所へ移りて移りていふ願也日光山
慈現太帝大明神とあり 神領千の畠 社地山あり
ありとていふはしりていふは是なり

宇都宮より日光へ九里は日光也なり
去人云九里ありとていふは九里程なり
東鑑卷之九 頼朝が奥州征伐の事あり
の条に七月廿五日中野國古多徳澤より著御し
た多し先宇都宮より金戦勝利の事は願也

河と第と生り流し又回巻あり奥に依
勝勝利河國の岸に園寄附志流し半
尺のさし今中類文の所存ありさし乃
橋の左端よりさし古多橋の跡をさしや
又今もさしの橋とさしと平りさしあり
しりや又左端右の岸より類文より奉幣し
たむふ河巡遊よりありさしとさしと編子
河穀賣の為りさしと尺のさしとさしと
さしと下河の切りさしと奥の岸より若中類文
さしとさしとさしとさしとさしとさしとさしと

河ありさしとさしとさしとさしとさしとさしと
さしとさしとさしとさしとさしとさしと

廻國雜記云二月二日河川青柳さしとさしと
竹林ありさしとさしとさしとさしとさしと
さしとさしとさしとさしとさしとさしと
花ありさしとさしとさしとさしとさしと
社ありさしとさしとさしとさしとさしと
さしとさしとさしとさしとさしとさしと
さしとさしとさしとさしとさしとさしと
さしとさしとさしとさしとさしとさしと

いさよきよに此頃奥別しはうつのみより

いさよきよ

さく大谷の親吉一河の入口二河程ありなりよ入
河津の社一河の中程あり春詣しる之辰らん
すし湯名代の名を治ひし警備の聲かび
て大谷の谷よか新橋所は高き親吉聖人の御
あや花見園河津四條流之石あり寺は遊山出巻
かきよ

源記曰往昔此國於賀那思八川の是某の妻

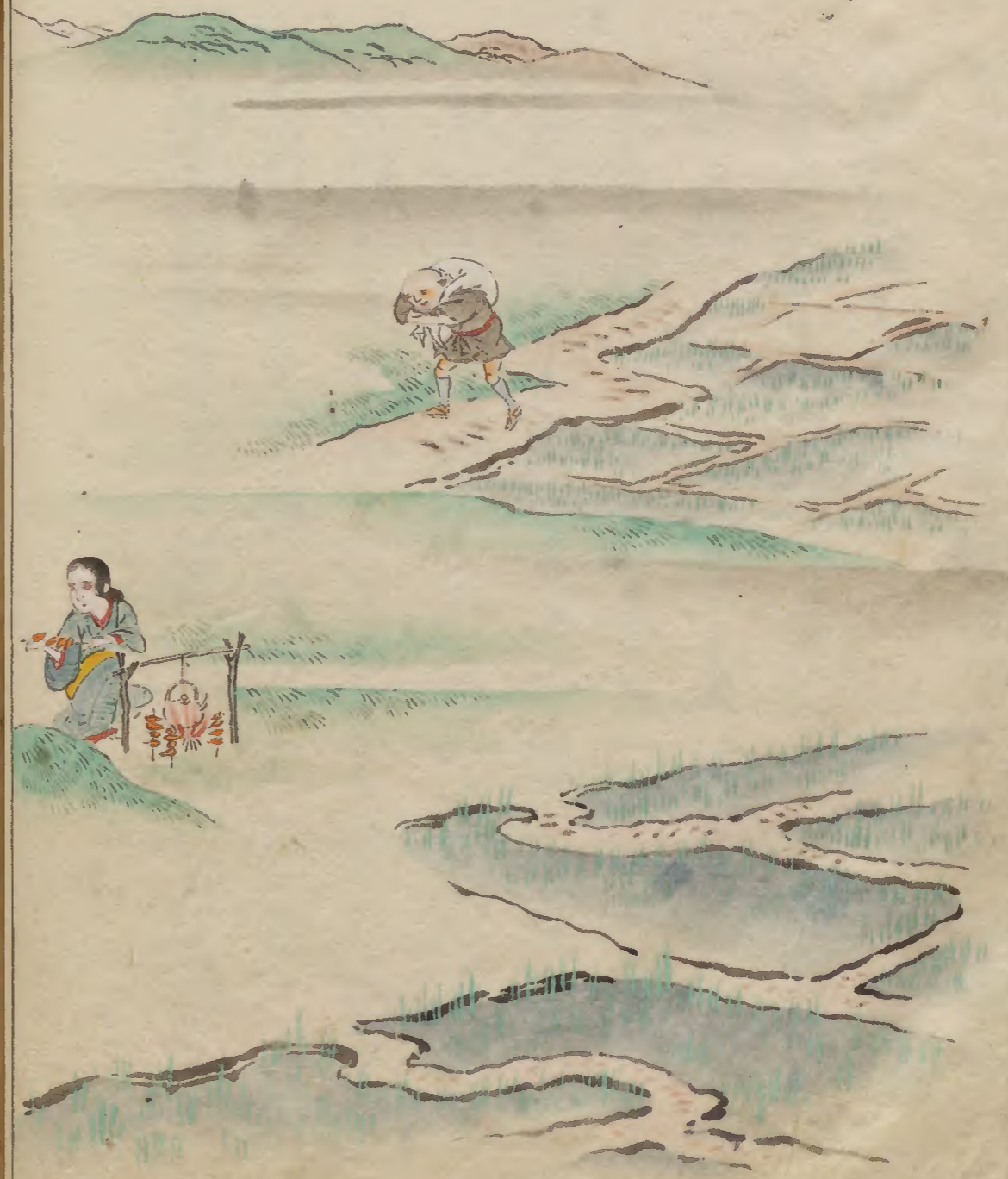
嫉妬よるに此川よ身よ所め大地よ所
こきよ孝大光よの池よ後く國中老
女人と九吟し事ねんあす治人
こけよのたし一室の八河大明神乃神
主候たり神よ河津里毎年十日
乃女子と園あし様とて須き
後堀川院の元仁年中明神の神
大沃持船院の娘尾よあす生父母
たしあきさるるたし一室の親吉聖人
當國河津の御まなり色ハかのむき

聖人の女人性生のおぼえを就ひての
彌陀地力成就乃名を——く救化
あまの色の娘深く信——ありまうを
様の壇よ堂をたてひて毒地のおよ
うしなむと未束をたててあまを
一心よ彌陀の名号法唱を於毒地お
中よを救世の業を一切法佛を
も獲——きむる也と字法く申る
つに終りておぼえしる能く——
家よ海をたててしるまうり聖人

彼池のほとりて庵とむしひ大地のおよ
お救化あまの娘は大地の女人の業となり
声礼——と救化の業を女養の性生を
遂げ侍る沈持なるも仇とさひ切らる
おぼえしるは東より西方より業を
おぼえしるは善法ありて大地が——
形と群——ありてあるまうを此化と花兒
園と称——又一字と建てて安芸の守と
いふ——
男書

まうりか——くお業師當ありて極入り

中丸村茶店之圖



日光山





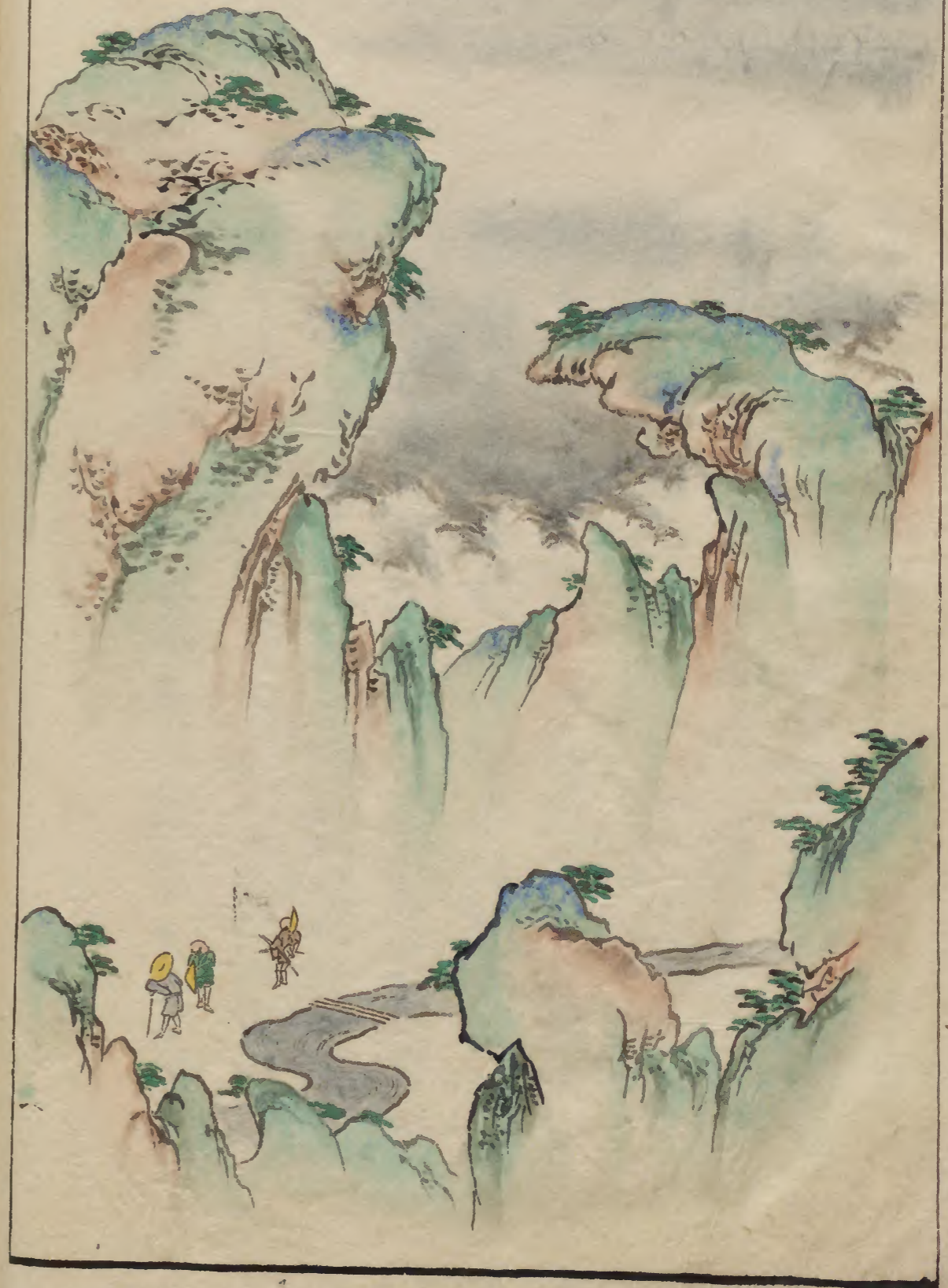
大谷觀音之圖



河内郡荒針々天洞山大谷寺是天洞
弘仁の頃ふ〜〜閑基若也昔者
古来より此處に〜〜此處に荒針
村地方と云余乃洞穴大指丈乃岩崎々
崖風立廻りかやく〜中間廣く平々
〜〜實や大谷と稱之〜岩下
涌出〜自〜川〜要害自然若
域敷なり昔此中ニ毒蛇住〜毒と
流中法人〜或時湯敷の行者
乃僧之人来〜毒蛇と降伏〜流中

患ひと救んと谷の中に入里十寺は
淨くおあり毒蛇退治〜乃は〜塔
其色〜〜去れ去人谷流〜
入〜岩山の一方は〜容
胎土の子動昆沙門天の如相懸然と彫付
たり是より此地湯敷山の行者と云〜且
觀世音と云信は是大谷寺の濫觴なりと
今谷の初等〜毒蛇の住る池あり今
蓮花〜〜側〜毒蛇と岩と辨々天
〜
巡礼記欽

荒針村石山略圖



多氣山
城跡



「名と字と源と類と六音と形と信のありてなるを
此地名山環り峙て居風と之也丁と似たり
壁の鋒の底と之と仰て夫と仰む
と云ふ一傍て天國山と名付る也」と

又と申東門よりわがわが山尾田守朝美の属儀なりと云く住僧の語より
ははく右の方細々と此の谷川は流るる風景
と云ふ一傍て中をわがわが馬智龍の道と云ふ
と云ふ尚經子の智龍新喬子の馬と云ふ一傍に
是れなりと左の方をわがわが馬と云ふ一傍に

右の方より分て觀音堂の横乃方より番人の居る
と云ふも庵の内より此の山と云ふと云く漢川
乃岩と云ふ右の麓に乃花と云ふ進む川より此の丸木
二本と云ふ一傍に乃花と云ふ右の石山交交の物あり
指丈二條丈といふ物邊流るるひたなるを或る
仰てあり傳何事なる乃相美法張るる此の物色ハ
亀の淵よのむと云ふと云ふあり垣のわくはらるる
わがわが鋒のわくはらるる何事かわがわが
と云ふと名あり千状万態筆より一と云ふ
と云ふ間平なる此の物あり指七八町ありと云ふ

是くは是道より北にありて、
上徳二里(武里)は、
高千八百石、
中多よか少し、
宇都宮より出たり、
上徳二里(武里)は、

徳二良岩 上中下三岩ニツキ 大沢(武里)は、
岩より流し、
かゝ級民家より、

五市の人、
岩今より、
之しを、
しは花より、
史より、
是は日光、
ありと、
大沢岩、

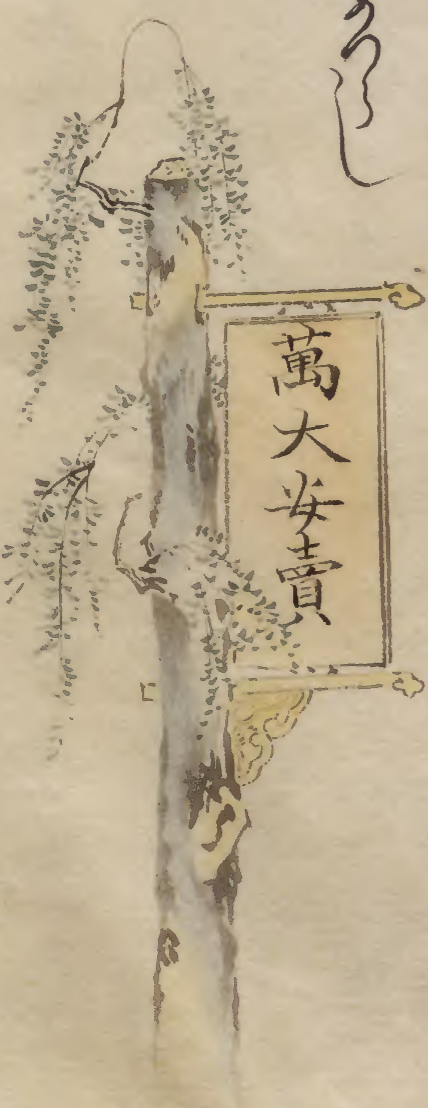
名の入、
し流、

將軍家日光淨社参の節此所を江戸のありと
 ともひしき用ひしせ流し此所より昔所の水師
 ひたり此所を名をり色より左の方拾貳所程より
 なるき前より浦出元水原浄見合ありと
 祥よとせきせむ程とせきとせきとせきと
 庭中とありしとせきとせきとせきと
 新喬子の堂もやなとせきとせきと
 有り井子のありの程とせきとせきと
 日光中とせきとせきとせきとせきと
 とせきとせきとせきとせきとせきと

の節 浄依所なる。水なり。村次と森友
 今市名 とも色 式

此所を日光浄山らり。名曰次中なり
 浄宮は通く何となくに流る。高家多く食の
 ち家数も多し。岩の井は深きと小登りなり
 商人多しとせきとせきとせきとせきと
 あらとせきとせきと

水景



堂社旧記曰勝道上人當山神開基、
時始于此所人家建五丁此町北
大谷川南ノ川岸ニ其真鉢ノ如ク
十石アリ依テ町ノ名トス

鉢石町之圖

日光地志ニ曰
赤那木新宮ノ乾ニ在
旧記曰昔摩訶薩坊長
ト云行者年々修苦行中
或日淨水と擲山ノ上リ派
引ルルアリカカキト云ル
水ノ徳流アリ

堂社旧記曰アカキ山神橋ノ北
三里余マカサリ坊元亨五年八月
六十二歳ニテ入峯平一度深山巴
室礼今ニ有之

つり
のり山
山上
多



女體山

日光志ニ曰名如法山ト云ルルト
女峯トあり男體山ニ云フツマ
女體山ト云フ所ニハ山ノ形アリ
板石アリ遠ク望ミテ人ト云ル
ト云ル者有リ但シ此ノ山ノ
常ノ者ハ半ノ高ニテ入峯ノ徳光
ノ介アリ者有リ

堂社旧記云如室山神橋ヨリ乾
六里絶項社殿ヲ道号如峯權現
上人、建立也

男體山
山上
多



申しと為りたりと但し江戸者きいはるるも
四ノ次子なるもしとて是ハ江戸の坊とてはるるハ
あり入江と相承所とてハ長き武所也

元禄十一年ハ巡見帳ハ一ノ所ノ家敷
新あり

次ハ石巻所也武所

巡見帳ハ武所ノ家敷中七軒
各跡志ハ武所ノ東側ハ瑞雲山院花とてハ
寺ありとてハ之ノ院ノ院主とてハ中ノハ
慈覚大師一ノ刀之礼乃ハ佛なり并辨法天

堂惠心ノ住なり此寺ハ新坂東之控武番ノ
札あり

次ハ津幸所也武所

巡見帳ハ武所ノ家敷四軒也
東側中程ハ稲荷所ノ横屋あり武所ノ
稲倉のまわり石裂神本地虚空蔵菩薩なり
稲倉乃まあり

次ハ千軒石所

巡見帳ハ武所ノ家敷四軒ハ
東側ハ横所あり八七女所とてハ

同—まのほくきよの當所山の出家入遊の長
勤の堂あり星の宿のふり毎年極月
たつ右の初者下着惟子とく藤懸をり
斗アとく明年二月下旬迄宿よ四月
二日の羽が峰なり夫下女全園去豊饒の
所祈のた光りなり
或人曰太初者二月迄宿よ出所神橋と道
すく又時流人なりすすゆとく初者老
者なりきたる也かゆゆすむけりきとみ
よ川とくたき

因所ありとく見月明神本地 巾衣名あり
はあり東山よるる山々小倉山とくさ
とく山とく物とくは名なりとく
皆山なり

かくく所山入口左に神橋あり其末を欄干とく
ありあり本とく後とく事とくゆとく

日光志に神橋長十指四歩

一書曰長十指間とく尺中之間とく尺七寸とく欄干

は尺乳木九を欄干擬宝珠令減黄七子

名跡志曰此橋古く山麓の蛇窟也以上同山勝道

上人嬉く也山の時は川よ感ずく橋のまよ
深沙大王忽物と形を青白乃二蛇と放く
橋をなす一橋ふ上人のりくなら山若く
蛇よ登るは後ま橋ふなま各く中右より
神橋と唱ふ橋の形を道にあり日光
舟く乳の木と云ぬの端一の乳の木に述し
穴ハ龍宮へ通するはしは橋の田井七社乃
明神を勧誘する常よ名簿のりのは
さハ橋けけのえの時ハ神事 法樂淨起式
ありと

廻國雜記よ此山は山菱のけりそく深秘
乃多洞ある橋はまきりそく海紀よ名
ゆる又形露よまきりゆるまきりあり
洞のまきりそくゆるすのけりそく
山菱のけり

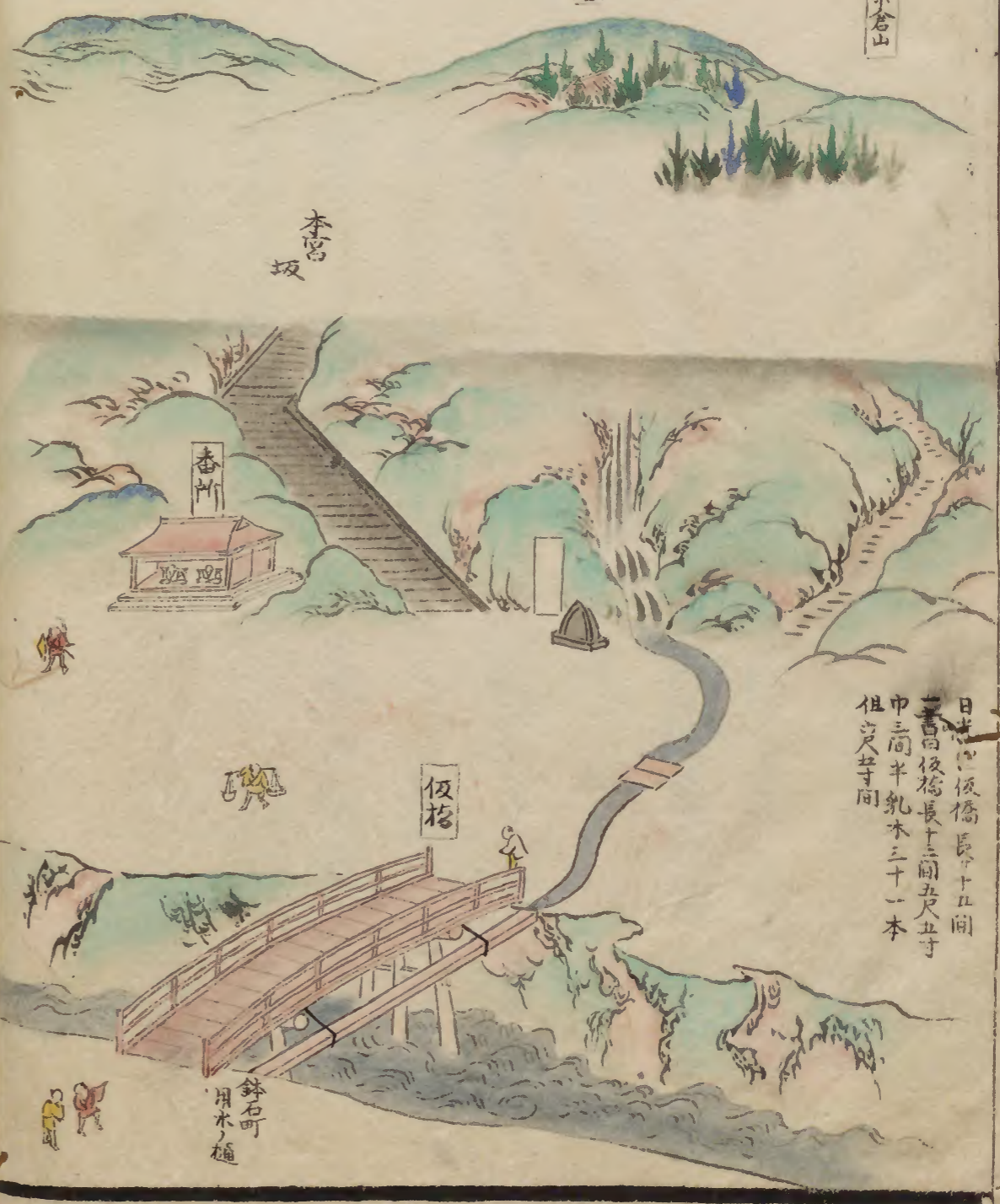
或曰は橋嬉くけし者乃子孫今も此世は後
俗は橋けけ長き橋なり

神橋をくの時ハ山崎変と神事とくけ
りえの時多く乳の木を乳の木よ
けりそくのまきり

病の方けをわたりは若狭けりそく山事と

御山入口御橋之圖

三條實倫卿
山笠のりけ
石と柱と
御代りか



日... 仮橋長十五間
... 橋長十三間五尺寸
中三間半乳木三十一本
但尺寸同

銚石町
用木ノ植

澄月飲枕
老のせよ
年とら...
つるよ...
山笠の...
右...
清少...
松山...
八雲...
出...



坂西

御宮道

坂長

下馬

像なり玄奘之義後天乃時現一玄奘と
たまけはるし免佛法守護の神とあり
法に首をさぐる貴い玄奘乃先世の貴
かるものなり

比川中禪寺湖水華嚴乃滝一落く比而く
流色赤い稲荷川一ツよ加く赤く鬼怒
川諸川とあり

日光地志に朝鮮人の比橋伝説する詩を載
し月の年や志す次あり

山菅橋

偶入壺中一破顔 場来橋上俯晴湾 蒼龍倒飲十層浪
玉竦斜連兩岫山 秋後客疑銀渚過 夜深人似月宮還
闲看白鶴飛華表 醉倚雲梯縹緲間 朝鮮國 津溟齊
路絶盤渦束峡間 飛仙於此亦凋顏 誰令烏鵲愁銀河
可異蛟蛇化草菅 陶素蟠桃通利濤 衡山絶頂有躋攀
由来禹鼎驅鬼魅 天下名區鬼得慳 龍州
絶径峻嶒路不通 長訪人跡到山中 只言黃鶴飛難過
誰料青蛇隨自空 結構從然輸衆力 攀援元是賴神功
如來濟渡直如此 故遣靈區叙梵宮 中竹堂
菅化靈蛇問幾秋 至今虹影卧中流 試思造物經營意

應為吾人汗漫遊 日落長空孤鳥沒 雲深窮壑老猿愁
興公未涉天台境 那見仙橋万丈脩

青螺山

さく右乃方飯橋と海をハ碑あり云々
清神領境より當所まで所々樹道並松平在邊の史
事寄進乃碑なり其文日光志に出言ハ大正八年二月

自下野國日光山山管橋至同國都賀郡小倉
村同國河内郡大澤村同國同郡大桑村歷
二十餘年植杉於路邊左右並山中十餘里以
奉寄進

東照宮

慶安九年 戊子四月十七日

從五位下

松平右衛門大夫源正綱

神橋右の方より清番所あり向ふ深沙大王の史を居
あり

額ハ大明院一品准后法親王乃志筆なり此地
昆沙門天社橋乃志後社なり

東照宮一の道筋社橋のなりを定於故に
長坂といふ寺あり同所の上より
四月十七日九月十七日清番礼の清旅なる
歩級なる中山通なる寺にあり此月



日光巡拜圖誌卷乃之終



名物なりと里人の至名所圖會

